

ゴミ焼却場の建設地として石鼓洲が不適切であること、

その評価に関する緊急意見書（案）

（はじめに）

この計画は、建設候補地の至近距離地区である長洲の郷事委員会ならびに地区住民に対して概略提示説明されている。それに対し、この計画を検討した、当郷事委員会ならびに地区住民は、この計画が不適切であると判断し、その実施に強く反対であるむねをすでに、明確に表示、伝達した。しかし、政府担当部署において、この当郷事委員会ならびに地区住民の総意に関する事実が検討されたとは聞かされていない。また、長洲住民が危惧し、疑問とする点、あるいは提案について、担当部署からの具体的な説明、回答は、いまもつて行われていない。長洲住民は、もしゴミ選別を実行すれば、燃焼ゴミは少なくなり、新たな規模の大きい焼却施設は必要ではないのではないか、という提案もしている¹。実際、長洲では、多数の住民参加によるゴミ選別の試行が実行された。

ところで、担当部署から提示された計画案は概略であり、より具体的な計画案は提示されていない。そのため、この事業が実施された場合、環境などに対しどのような影響があるのか多くの点で不明、かつ、あいまいなままである。

その理由の一つは、計画案では、この地域に対する現在の環境の状態が評価されていないことがあげられる。

また、提示された範囲の概略案には、あやまり、あいまいさ、それに、重要な見落としがある。それらが、地域の実情を日々知る住民と計画当事者の間に認識の違いを生む原因になっているとも考えられる。

ここに、計画に関する主要な問題点、意見、要望、住民総意としてあらためて列記し、関係部署、政府に対し、その施策の検討に資するよう配慮して、重要な参考資料として提出するものである。これにより、石鼓洲でのゴミ焼却場の建設計画が再検討されることを求めるものである。

1 大気に放出される物質による大気汚染について

（1）担当部局の説明では、これらの大気中への放出物質はほとんど地表に降下することなく水平に拡散する、その原因是、煙突の高度と石鼓洲の山が上昇流、あるいは障壁をつくるからだとしている。このような単純な評価には誤りがあると言わざるをえない。実際は下記の通りである。

(2) 石鼓洲の山、特にこの山の尾根は、気流に乱流を発生させる。それにともない大気には下降流、大気を混合させる流れが生ずるという事実が考慮されていない。また石鼓洲が近接するランタオ島には山が多く大気に乱流が発生しやすい。これらの山形の影響を受け大気は乱れ下降流が発生する。このような乱流により、放出された、ガス状物質と粒子状物質が下降する。

(3) 大気中には逆転層が発生する。これは大気上層の方が、気温が高いという逆転現象が生ずる。この事実が考慮されていない。このような現象がおきると煙突から放出された物質は上昇せず停滞し、じょじょに下降する。この現象は一般に大気汚染を促進する。

(4) 石鼓洲や長洲島の海域で、冬季を中心として霧が発生することがめずらしくないのは、この気温逆転層が生じるためである。このような場所に煙突から粒子状下降物質が放出されそれが増加すれば、その微細な粒子状物質は空気中で水滴の核となり、より多くの霧を形成する。このような霧は滞留、降下することになる。この霧が多発する時期が、水面に近い場所での魚の産卵の時期であることを長洲の漁民は良く知っている。

(5) これらの事実から、ゴミ焼却計画地から至近距離にある長洲島では、汚染大気の降下、粒子状汚染物質の降下からまぬがれることはできないと結論される。

また、これらのことから、この石鼓洲の計画が、香港における二つの大きな問題を引き起こすことになる。

(6) 第一の問題は、石鼓洲、長洲の海域は、ちょうど重要交通路、香港、マカオ珠江間の高速船などの航路上にある。したがって、石鼓洲に焼却場が建設されれば、その大煙突の真下を、一日に数百艘の船舶が通ることになる。世界各地から来る観光客に対し海域の景観を損なうという失望をあたえるだけでなく、この海域の霧の発生を増大させ、交通の安全が脅かされることになる。これまでも、長洲住民は、高速船や各種船舶がしばしば濃霧のなか、汽笛をならしながら走っていることをよく知っている。

このことはさらに大きな問題につながる。

(7) 第二の問題は、石鼓洲の北西、9 kmの位置に香港国際空港があることである。空港にとって、霧の発生は死活問題である。これまで香港空港では、霧の発生がくりかえされており、それが問題視されている。

地図上で石鼓洲と空港の関係をみると、この二点はランタオ島の南面と北面の関係にあり、その間の地形には、ちょうど二つの山（相当な高峰である）がある。ところが高峰の

間は低地である。そこはちょうど大気の通路のような地形になっている。そして空港側はより霧が発生しやすい窪地地形になっている。この風の通路である地形を日周風である、昼間、夜間で交代する陸風、海風が通ることが確認される。昼間、暖められた石鼓洲側の大気は容易に上昇、低い部分を通って空港に到達し、夕刻になると窪地、空港上空に滞留（逆転層を形成）し、霧を発生させることになる。また、ここは季節風のルートとなりやすい地形でもある。このように、石鼓洲のゴミ焼却施設が排気物質によって香港空港に障害をあたえる状況が生ずる。

(8) また、石鼓洲から西方に 8 km の位置に長洲、ランタオ の水源である石壁貯水湖がある。ここでは周辺に降った雨水を集水し貯水するために、広範囲の山腹に水路がはりめぐらされている。（この技術はかつて香港の水利用の優れた技術と賞賛された）。これら集水地形は石鼓洲側に傾斜しているために、あたかも、石鼓洲施設から流入する大気汚染物質の受け皿のようになっている。したがって、計画が実行されれば、この水源で水汚染が進むことはさけられないと予測される。

(9) また、長洲、石鼓洲は香港湾の西方入り口に位置し、この地域の大気の汚染が進めばいっそう香港湾、香港地区、九龍地区の滞留性の高い汚染の拡散域であるはずの領域が、新た、かつ、強力な大気の汚染源をもつことになる。現在、これら香港地区の大気汚染には細心の注意が払われているはずである。

2 海水中に放出される物質による海域気汚染について

(1) 石鼓洲施設の処理水による海域汚染計画の概略では、施設での水利用の詳細は明らかにされていないが、排出される汚染水は「特殊幕」を使用して、汚染物質を除去して海域に排出されるとされている。したがって安全であるとされている。

しかし、この想定は単純すぎ、そのような完全な「特殊幕」の姿の描写は事実ではない。

(2) まず、排出される水の量が大量であることが問題である。それは、窒素酸化物、硫黄酸化物などを含む各種汚染物質除去に使用される水、焼却灰の運搬や飛散を防ぐなど処理する水、各種洗浄水、雨水や海水など施設に侵入し汚染された水、さらに汚泥水などである。浄化のために使用される特殊幕は、海水に接した埋め立て地から海水中にろ過水を排出するが、これには、限られた空間で処理されるなど、技術的な困難がともない、完全な汚染処理はできないと予測される。つまり、ある程度の汚染水は排出されると予測しなくてはならない。また、焼却灰の飛散などによる直接的な海域汚染があり、その焼却灰の海底堆積もあなどることはできない。

(2) 現在、長洲の海域の水質の維持は、この海域への海水の流入が、珠江の水の流入にあわせた海水の流入などにより、主として石鼓洲側から行われている。また、香港島側からは、多くの浮遊物を含む汚染水が表素流となって流入し汚染を進行させている。特に、秋、冬にこれら汚染物が漂着するのが観察される。砂浜に上がった漂流物は、毎日集積され、ゴミとして処理されている。しかし、多くの海洋汚染物はそのまま、この海域で回遊、放置されている。また、広範囲に水質の悪化を示す赤潮の発生が見られる。また、最近は漂着するオイルボールが多くなり、すでに、長洲海水浴場、芝麻湾養殖場は危険水準にある。これらは長洲住民が心を痛める事実である。

(3) したがって、このような状況の長洲近海域に、西方、石鼓洲側からのゴミ焼却場の各種汚染水の流入が始まれば、この海域の状態が急速に悪化することは避けられないと結論される。

また、長洲海域は香港湾の西方入り口に相当し、この海域の汚染が進めば香港湾、香港港の汚染が深刻化するという関係にあることを理解しなくてはならない。

3 環境評価 環境影響評価を実行し、それを利用することを求める

(1) また、この計画で、環境評価が行われたとは聞いていない。また、その環境評価をもとに今回の立案が適正であるか検討されたとも聞いていない。これは、どうしたことであろうか。

(2) ゴミ焼却場の建設などのプロジェクトの場合、影響があると予測される地域の環境の現在の状況を評価することはもっとも大切なことである。それは、まず、この建設プロジェクトが適正であるかを判断するためである。また、事業がスタートした場合にその影響を評価するために環境の状態は常に評価されねばならない。これによって、事業をコントロールし、その状態を改善し、また、将来を予測することができる。したがって、環境評価をすることが欠かせない。

(3) また、この環境評価は広範でなくてはならない。なぜなら、このゴミ焼却場の建設プロジェクトが、香港全体に影響をあたえ、香港交通の主要幹線に重要な影響をあたえることが予測されるからである。このゴミ焼却場の建設計画が実行されれば、国際的に重要な香港国際空港はその北側と南側の両面にゴミ焼却場を配置するという異常な事態が出現することになる。また、国際港、香港港はその海水の流入口である湾口に海水の汚染源をおくことになるのではないか。これら問題は大きな問題である。これらのことを忘れて、計画を立案してはならないことをここに明記したい。

また、運搬船の交通問題も怪く考えることはできない。マカオ航路の高速船、船舶の運

關於石鼓洲設置垃圾焚化爐為本組其不適切
及其言論的緊急意見書（草案）

（前言）

這個計劃，對於在咫尺的候邊地之袁洲鄉事委員會及其居民只作了大概陳述說明。而在這方面，該委員會及居民將此計劃作檢討後，早已判斷為不合理，並明確地表示和傳達會全力反對這計劃實施。但政府的負責部門，對於該委員會及居民關於此事實作檢討後的各方意見充耳不聞。還有，對於袁洲居民的恐懼、疑點以及提案，到現時為止負責部門仍未作出具體的說明和回答。袁洲居民的主要提案其中之一是假若實行垃圾分類，則燒燒垃圾便會跟着減少，那時候還需要又新規模又大的垃圾焚化爐嗎？而實際上，於袁洲大部份的居民已努力實行了的垃圾分類體驗計劃。

另一方面，由負責部門提出的計劃方案只有大概並沒有較具體的提案。因此，在實施這企劃時，基礎等等金帶來甚麼影響仍存着很多不明點，並難得含糊其詞。

其中一個理由，是計劃書顯露出並未就這地出現在的環境狀態作出評估。

另外，根據方案提出的範圍，謬誤而複複而可，並有唐突的偏調。這種種無疑是對地情疏忽難通的居民：和計劃負責人間迥異的理解而產生。

在此，特闡述這計劃的主要問題、意見、願望和居民意願重新商討已及利益的部署；對於政府，提出這些重要的參考資料，希望有助檢討這方案。並隨之要求將石鼓洲的垃圾焚化爐建設計劃而加以檢討。

一、關於對空氣的揮發物而形成的空氣污染

(1) 於負責部門的說明中，這些對空氣的揮發物大部分不會降下地面，而是會水平擴散，其原因為煙囪的高設和石鼓洲的山為主導氣流，又或者會造成屏障。這種單純的評估可以說是存着謬誤。實際的情況如下述。

(2) 石鼓洲的山峯，特別是山嶺部分會令氣流產生湍流。再加上空氣中的下降流，會和空氣匯合成流此點事實未被考慮。其次跟石鼓洲接鄰的大山與山頂山峯很多令空氣中易生湍流。

空氣受到這種種山勢的影響便會產生猛烈的下降流。隨着這種湍流，噴出的煙霧狀物質和懸浮粒子徐徐下降。

(3) 空氣中會產生逆轉層。這是指於空氣的上層方位，會產生高溫的逆轉現象。這個事實來有被考慮在內。發生這種情況則從火煙函噴出的物質便停滯不會上昇，更徐徐下降。這種現象一般會促進空氣污染。

(4) 在石鼓洲和長洲的海域，以冬季為主的霧起晴天並非少見，就是因為產生了這種氣溫逆轉層。在這種地方，假如由火煙函噴出的粒子狀下降物質增加的話，則那些微細的粒子狀物質在空氣中成為水滴的核芯，形成更多的霧氣。這種霧氣便會下降。而這種霧氣頻生的時期，在接近海面的地方亦為鱼类的產卵期，此點對長洲的渔民來說是所周知。

(5) 從這種種事實得出的結論，是垃圾及焚化爐的選址最近距離的長洲，將無可避免受到空氣污染和粒子狀污染物質的下沉影響。

另外，從這些事件中，此石鼓洲計劃示露出香港的二大問題。

(6) 首個問題是石鼓洲和長洲的海域，正好處於重要的通道上，為港珠澳間的高達船等的航運。隨之，若設立石鼓洲焚化爐，則在這大煙囪下，每日將會有數百艘船舶通航。對於來自世界各地的遊客，不單止因海域的景觀有損而失望，更會令該海域的霧氣增大，威脅夜航的安全。現時為止，長洲的居民、高達船和各種船隻仍屢屢在濃霧中邊續氣管一邊航行此點衆所周知。

這點更加連繫着更大的問題。

(7) 第二個問題，是在石鼓洲的西北9 km位置正是香港國際機場。對機場來說濃霧的衍生是生死攸關的問題。直至現今，於香港機場反覆地衍生濃霧此問題是可見的。

從地圖上看石鼓洲和機場的關係，這兩個地方正好在大嶼山的南面和北面，而其間的地形，剛好有兩個山峯（為相同的高峯）。但高峯間為低地。那裏正好成為空氣通道的地形。所以機場一帶便成為較容易衍生霧氣的地形。這風的通道地形為日風，確定為日夜循環交替的信風和逆風。日間，被燃燒的石鼓洲一帶的空氣容易上升，通過低地到

達機場，傍晚時帶著於當地機場上方（形成逆轉層），便衍生霧氣。另外，這裏也是容易成為季候風路線的地形。所以，隨著石鼓洲的垃圾焚化設施的排放物質，會產生給香港機場帶來障礙的狀況。

(8) 還有，在石鼓洲以西8km的長洲和大山與山，擁有水庫的石壁水塘。在這裏為了貯集周圍的降雨，在廣大範圍的山腰裏掛滿縱橫交錯的喉管。（就此技術而言香港對水利的優秀技術極被讚賞）。此種收集雨水的地形，於石鼓洲一帶因為較為傾斜的關係，由石鼓洲設施流入的空氣污染物質，便彷彿把鑑一樣全盤承襲。因而，若實行此計劃，可預測到此水源將無可避免加速污染。

(9) 長洲和石鼓洲位於香港灣的西面入口，若此地域的空氣污染加速的話，則香港灣、香港地區和九龍越發會成為帶頭性高污染的擴散領域，更變成新一輪並強大的空氣污染源頭。現在，對這些香港地區的空氣污染，應該詳加注意。

2 論述對海水的釋出物而成的海域污染

1) 根據石鼓洲設施的處理水之海域污染計劃概略中，對設施的水利用詳情並沒有明示，而遭排出的污染水將利用「特殊濾網幕」，除去污染物質後再排放海域，並認為是完全可行。

但這種假設未免過份單純，這種完全的特殊網幕上的形態描述並非事實。

2) 首先，遭排出的水量是極大為問題所在。除去包含氮氧化物、硫磺酸化物等各種污染物質的使用水、焚化灰燼的搬運和防止飛散等的處理水、各種清潔用水、雨水和海水等侵入設施後遭污染的水，還有污水等等。為了彈性而使用的特殊網幕，雖由填海地向海水排出過濾水，但在有限的空間中處理此等等技術的困難可想而知，可預測到未能完全處理污染。亦即是說，必定預測到某程度的污染水會遭排出。還有，隨着焚化灰燼的飛散會直接污染海域，而沉積在海底的灰燼亦不可以單忽視。

現在，長洲海域的水質維持，流入這海域的海水是集成了珠江水和海水，主要在石鼓洲一帶匯流而來自香港島一帶含極多污物的污染水，成基層的表流水流入並進行污染。尤其在秋冬多雨季，可觸錄

到這些漂浮着的污染物。坤上砂礫的漂浮物，
每日積聚成作垃圾破壞地。但是，為甚麼多的清淨
污染物就原封不動在這海域上迴旋，置之不理。
另外，顯示出水質惡化的浪潮引向更廣大範圍。
而最近漂浮着的油污亦大大增加，表洲的深淺、
芝麻灣的養魚排亦達危險水平，這些都是令市民
居民痛心的事實。

(3) 隨之，於這種狀況的長期迴旋裏，若由西
面、石鼓洲一帶的垃圾焚化爐的各種污染水開始
流入的話，這一帶海域的狀態便會急速惡化，
這點是無可避免。

還有，長洲海域是相當於香港灣的西方入口，
若這個海域的污染加速，則表示香港灣、香港
的污染問題更趨深劇化，箇中關係不得不加以
考慮。

3 實行環評、環境影響之評價，尋求利用

(1) 這個計劃中，並未聽聞有進行環評，而將那
環評作基序去檢討這次的方案合適與否亦沒
有聽聞，這究竟是怎樣一回事呢？

2) 這項改變機場的建設規劃，最重要的是評價其所生的影響，和預測地域環境的變化情況。首先，是為了判斷這個建設規劃是否適當？其次，對企劃開始後其影響作出評價，對環境的狀態更要作出評價。根據此點，可控制企劃，又可改善其狀態，還可以對未來作出預測。因此，這項報告不能缺少。

3) 這項評報告必須廣範。原因是這項改變機場的建設規劃，會令全香港受影響，可預測到會為香港交通的主要幹線給與重大的影響。若實行這個項改變機場的建設計劃，於國際性生產的香港國際機場之北面和西面設置垃圾焚化爐，則異常的狀態便會出現。另外，對國際機場、香港的海水流入該港口的海水污染可以置之不理嗎？這些問題都非等嚴重，要不引起當地急切入立新計劃此點在這裏明確記念。

另外，對連輸和船的交通問題亦應為輕視，澳門航道的高速船、船舶的連航非常高連而頻繁，這些航道讓低速的拖船船橫切，既耽擱是短時間，也會出現如「小鳥」般狀態，變成成為極大的問題。這般問題亦不能忽略。

(4) 袁洲的居民，從東邊到西邊再到天長的香港及九龍，但隨着空氣的狀態惡化而看來，到對岸是屢見不鮮。這種情況是表示袁洲和香港等之間的空氣溝通不靈動。加上袁洲的沙灘上，滿佈由香港方面流進來的油污等污染物。袁洲的優點是風光明媚和純潔的傳統，那種變化實令人擔心。入袁洲的港口時，石鼓洲正面迎面走來，跟着從右舷而來。這袁洲邊鎮，盡是乘搭高達船的觀光客以飽覽之地。袁洲的居民亟急為那些遊人的安全所煩惱。每次看一張地圖，香港的正面開展下去，潮水的漲落主流在袁洲海域中進行，這正面的海域環境維持把持着香港環境的命脈。這種事實，意味着對於政策上種種的環境評價是次要的。

(5) 揭示出袁洲中環棧道的關係佈局中，其環境拂出標準在EU標準中雖列為標準，但對香港來說，其ECA的施策、垃圾分類等等在現時還來看是實行不足。因此原ECA標準便不能適用。而且要實行EU標準，必須要循着多層的步伐。所以，就算真的實行垃圾分類，某些環境污染是無可避免的事實此點必需擋止。辦情況在ECA的標準中應包含在內的事實必需理解。亦即是說，這種

種企劃的言論上，及忘以事實作為根基為着作出科學的言論。

(反觀反言)

以上的主要 3 項，是基於長洲居民的全民意見，何以長洲居民對這建設計劃作出反對的理由，而重申明示。隨着而要求檢討石鼓洲的垃圾焚化爐建設計劃。就元政府、負責部門對上述各項尊重並加以參考，包括就香港的垃圾處理、垃圾焚化爐的應有方案、而就元石鼓洲建設計劃的全商與否？重新作出真摯的檢討，不單如此檢討而胡亂上馬只能希望其後不會種下禍根。

還有，這文書發表的標題為「緊急意見書」，是因為在長洲漁民之間，自擊石鼓洲的現場，早已為實行建設計劃的部份而作出遷移的事實顯生恐懼。在這裏嚴正要求政策能公正循着步伐前進。

另外這文書發表和宗旨是公開諮詢並加以記錄。